

受付番号： 2017-1-229

課題名：子宮平滑筋腫におけるステロイドホルモン関連因子の発現に関する後ろ向き研究

1. 研究の対象

2000年1月～2015年12月に当院で子宮筋腫（子宮平滑筋腫）もしくは子宮平滑筋肉腫の手術を行われた方

2. 研究目的・方法

子宮平滑筋腫は代表的な子宮の良性腫瘍である。良性腫瘍ではあるが、不妊の原因となることもあり、また、流産や早産のリスクも高くなる。根治のためには外科切除が必要となるが、妊孕性温存のためにはホルモン療法が用いられる。しかしホルモン療法の効果は一過性に留まるため、さらなる治療法の拡充が望まれている。本研究では子宮平滑筋腫の新規治療法の拡充として、種々のステロイドホルモン（アンドロゲン、糖質コルチコイド、鉱質コルチコイド）に着目し、それらホルモンの関連因子について病理組織標本を用いた検討を行う。さらに悪性腫瘍である平滑筋肉腫についても同様に検討し、平滑筋肉腫との差を明らかにしていく。近年、高齢出産が増えており、妊娠に対する子宮平滑筋腫の問題も増えてきている。本研究成果から、子宮平滑筋腫の新たなホルモン療法標的因子の発見と、平滑筋肉腫とホルモン動態による鑑別法の提言が見込まれる。本研究では、子宮平滑筋腫および子宮平滑筋肉腫の病理組織標本いずれも50例を対象に、アンドロゲン、糖質コルチコイド、鉱質コルチコイドそれぞれの受容体、さらに合成・代謝酵素の発現を免疫組織化学にて検討する。得られた結果は情報にて数値化し、両腫瘍の発現差に関して統計解析を行う。（研究期間：2017年6月～2022年3月）

3. 研究に用いる試料・情報の種類

手術によって摘出された子宮筋腫（子宮平滑筋腫）および子宮平滑筋肉腫の病理組織標本（病理組織標本とは顕微鏡診断を行うための標本であり、本研究では診断が既に終了・確定した標本を用いる。）

4. 外部への試料・情報の提供

該当なし

5. 研究組織

該当なし

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先：

研究責任者：三木 康宏 東北大学災害科学国際研究所 災害医学研究部門

災害産婦人科学分野 講師

住所：〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1

TEL/FAX：022-273- 6284

◆個人情報の利用目的の通知に関する問い合わせ先

保有個人情報の利用目的の通知に関する問い合わせ先：「6. お問い合わせ先」

※注意事項

以下に該当する場合にはお応えできないことがあります。

＜人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 第6章第16の1(3)＞

- ①利用目的を容易に知り得る状態に置くこと又は請求者に対して通知することにより、研究対象者等又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
- ②利用目的を容易に知り得る状態に置くこと又は請求者に対して通知することにより、当該研究機関の権利又は正当な利益を害するおそれがある場合

◆個人情報の開示等に関する手続

本学が保有する個人情報のうち、本人の情報について、開示、訂正及び利用停止を請求することができます。

保有個人情報とは、本学の役員又は職員が職務上作成し、又は取得した個人情報です。

1) 診療情報に関する保有個人情報については、東北大学病院事務部医事課が相談窓口となります。詳しくは、下記ホームページ「配布物 患者さまの個人情報に関するお知らせ」をご覧ください。（※手数料が必要です。）

【東北大学病院個人情報保護方針】

<http://www.hosp.tohoku.ac.jp/privacy.html>

2) 1)以外の保有する個人情報については、所定の請求用紙に必要事項を記入し情報公開室受付窓口に提出するか又は郵送願います。詳しくは請求手続きのホームページをご覧ください。（※手数料が必要です。）

【東北大学情報公開室】<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kokai/disclosure/index.html>

※注意事項

以下に該当する場合には全部若しくは一部についてお応えできないことがあります。

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 第6章第16の2(1)>

- ①研究対象者等又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
- ②研究機関の研究業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合
- ③法令に違反することとなる場合